

分析結果報告書〔4〕 1 / 2

1.4 廃棄物溶出液試料(カルシウム)

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得(複数回答可)	1. ISO 9001~9003 2. ISO 14001 3. ISO/IEC 17025(ガイド25) 4. M L A P 5. 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格
分析主担当者名	
分析主担当者の経験年数	()年
分析主担当者の実績(年間の分析試料数)	()

回数	分析結果(mg/L) 注1)	
	検出下限値以上 注2)	検出下限値未満での検出下限値 注3)
1回目		
2回目		
3回目		

注1) 一旦受領した結果については、訂正があっても受け付けませんので、記入間違いや単位間違い等に注意する。

注2) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字3桁で記入する。

注3) 検出下限値未満であった場合、検出下限値を有効数字1桁で記入する。

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日

分析方法	1. キレート滴定法 2. フレーム原子吸光法 3. ICP発光分光分析法 4. イオンクロマトグラフ法 5. その他()
使用した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他()

<キレート滴定法>

試料量	()mL
準備操作(前処理)	1. 前処理を行わない 2. 行う()
試料の希釈	希釈倍率()注1)
10mmol/L EDTAの滴定値	()mL 注1)

注1) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。滴定値については、1回目の値を記入する。

<フレーム原子吸光法>

試料量	()mL
準備操作(前処理)	1. 前処理を行わない 2. 行う()
試料の希釈	希釈倍率()注1)
原子吸光分析装置	1. 行わない 2. 重水素ランプ 3. 偏光ビーム 4. その他()
バックグラウンド補正	()nm
測定波長	1. アセチレン-空気 2. アセチレン-酸化二窒素 3. その他()
ルーム	1. 添加する 2. 添加しない 3. その他の添加()
ランプ()溶液の添加	

注1) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

<ICP発光分光分析法>

試料量	()mL
準備操作(前処理)	1. 前処理を行わない 2. 行う()
試料の希釈	希釈倍率()注1)
ICP発光分光分析装置	1. 波長走査(シーケンシャル) 2. 波長固定(マルチ) 3. その他()
装置の型式	1. 行う 2. 行わない
バックグラウンド補正	1. 使用しない 2. 使用する
超音波ワライナーの使用	()秒
測定時間	()nm
測定波長	

注1) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

分析結果報告書〔 4 〕 2 / 2

< イオンクロマトグラフ法 >

準備操作（前処理）	1 . 前処理を行わない 2 . 行う()
試料の希釈（希釈倍率）	希釈倍率() 注1)
注入量	() μ l

注1) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

< 検量線の作成等（滴定法以外） >

定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類	1 . 絶対検量線法 2 . 標準添加法 3 . 内標準法 1 . イットリウム(Y) 2 . インジウム(In) 3 . イテリビウム(Yb) 4 . 钨(W) 5 . ビスマス(Bi) 6 . ベリリウム(Be) 7 . ロジウム(Rh) 8 . レニウム(Re) 9 . その他()
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	() 最小() mg/L ~ 最大() mg/L 注2) ()
試料の指示値	1 回目() 注3) 2 回目() 3 回目()
空試験の指示値	() 注4)
検出下限値	() mg/L 注5)

注2) 分析装置で測定する溶液中の濃度（mg/L）を示す。

注3) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。

注4) 標準添加法では記入しない。

注5) 試料中の濃度（mg/L）を示す。

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	
--------------------------	--

計算式	
-----	--